

慶応二年五月十四日より慶応二年五月十八日まで

P8310593_right

来り、あなご一折持参の旨、伊藤（幸）義、町田耕司を伴い来る、同人より蒸菓子一笥を贈らる、墨陀行の一行帰り来り、何れも泊宿、柳亭より桜餅、梅花漬等銘々へ贈りし旨、礪川より鮎一器贈らる

十五日 酉 風雨午下漸稍軽

出 殿昨御談の義有之処、和泉守殿御引に付、御宅へ出家来（公用方を以申し上る）又出 殿、河内守殿へ

申し上る、正覚稽古に来る、番町よりは迎駕来り、坂町は駕返し、礪姑い□児は泊宿□風雨による

十六日 戌 陰 正午 温度六十六度（摂氏 19度）

宅調、金井（源）菓子一笥持参、石川（善）の義頼聞る、松盛亭稽古に来る、墨陀邸へ便り有之に付、快翁方へ一昨日借用の品を返しテンフラ一重を贈り柳亭へ烟葉箱入を遣す、太郎と

P8310593_left

轡（くつわ）を並べて墨地邸へ行き建築の義を指揮す、伯母正覚柳斎の外老人とも来会し洗鯉（*）蕎麦等勸らる、保三来る、町番隠居鉄児衣服買入世話に来る、□児を伴い帰りし旨、十七日 亥 陰

村越喜善初て来り面す（丁重の少年年也）出 殿展観境場所物、亜見分として掛り役々一同開成所へ

午下より相越す、藤山稽古に来る、須崎（常）来る小品持参、縷々の内情申聞る、

十八日 子 雲

長蔵来り合口かな物見本持参、地金代を渡し張立方頼み、且床表装二幅仕立の義命じ命じ

方をも頼遣す、柳斎稽古に来る（抱やしき）修復料を托す、出 殿和泉守殿、玄蕃殿、縫殿頭第一時過より開成所御見廻り展覧会所御見置に付、掛り役の相越す、藤児番町より帰り来る、

*1（洗鯉）あらごい、鯉を薄い身にして氷水で洗う料理

（）内は細字双行（一行に小さい文字で二行書き）などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。